

Let's エコ運転!

昨年末、13年間乗り続けた愛車を買換えました。

この車には燃費をモニターに表示させる機能や、燃費効率が良い運転状態になると、エコドライブマークが点灯し、エコ運転を確認することができる機能がついています。「見える化」でエコ運転への意識も変わります。

また、信号停車時に、自動でエンジンが停止するアイドリングストップ機能がついています。慣れないうちはエンジンが停止するたびに緊張していましたが、この頃は「あたりまえ」に思えてきました。この機能をつけることで、燃費が23%も向上するそうです。(メーカーカタログより)

車の環境への取り組みに関する技術は随分と進化していました。乗り手の私も以前よりエコ運転を自然と意識するようになってきました。結果的に、地球環境にもお財布にもやさしく2重の喜びを感じています。



「エコドライブ10のすすめ(エコドライブ普及連絡会)」

- ① ふんわりアクセル「eスタート」
- ② 車間距離ゆとりをもち加速・減速の少ない運転
- ③ 減速時は早めにアクセルを離そう
- ④ エアコンの使用は適切に
- ⑤ ムダなアイドリングはやめよう
- ⑥ 渋滞を避け、余裕をもって出発しよう
- ⑦ タイヤの空気圧から始める点検・整備
- ⑧ 不要な荷物はおろそう
- ⑨ 走行の妨げとなる駐車はやめよう
- ⑩ 自分の燃費を把握しよう



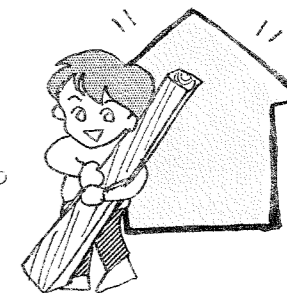
私が特に気をつけているのは、『ふんわりアクセル』です。発進時には「5秒後に時速20kmくらい」を心掛けることが燃費向上には良いことがわかりました。このふんわりアクセルで燃費が10%以上向上した実験結果も報告されています。私は忘れ物をして、ドタバタと出発する事が多く、不必要なアクセルを踏み込んでしまっていました。時間に余裕をもって行動したいです。

ガソリンや軽油などの化石燃料で走る自動車は、地球温暖化の大きな原因になっているとも言われています。日本におけるCO₂排出量のうち約2割を運輸部門が占めていますが、その約半分が自家用車からの排出です。自動車の作り手側からも環境負荷を減らす努力がなされています。車は私達の生活には欠かせません。乗り手である私も、エコ運転を長く続けていきたいと思えます。皆さんもLet's エコ運転!!

<<N.N>>

【参考資料】 http://www.eccj.or.jp/recoo/eco10/eco10_index.html
<http://www.eccj.or.jp/idstop/say/04/index.html>

森と消費のつながり

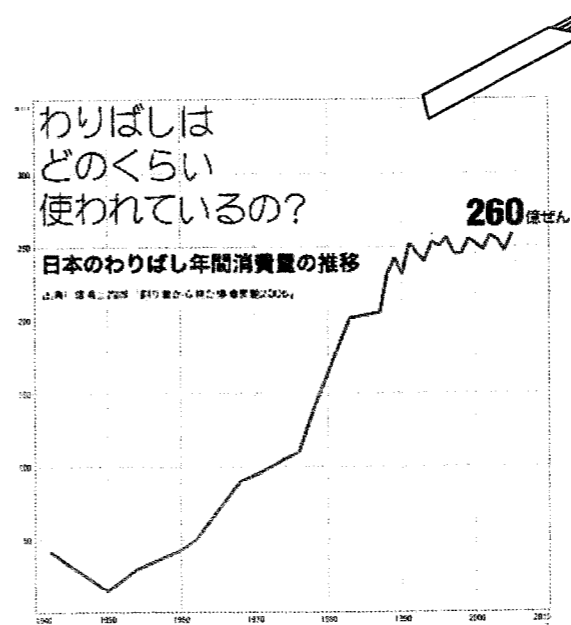


我が家は木造住宅です。その大半の木材を家族で森から切り出し、けっこうな時間と労力をかけて建築資材にするという貴重な経験をしました。さて皆さんは、お住まいの屋台骨がどこ産かおわかりですか？



日本は、国上の約7割が森におおわれた、世界でも有数の森林国だそうです。保水、動植物の生息、CO₂の吸収など、森は様々な役割を果たしています。しかし、その森のおよそ4割を占める人工林の荒廃が進んでいるといわれています。そもそも人工林は、人の手をかけて更新が図られる資材利用前提の森です。にもかかわらず、国内で使われる木材の7割以上が輸入品となった現在、林業に携わる人はわずか5万人弱となり、高齢化も相まって停滞し、森の荒廃を招いているのです。

世界の事情をみると、かつて日本の国産材を圧倒した南洋材(東南アジアなど)・北米材(カナダ、アメリカ)は、資源の枯渇と自然保護による伐採の禁止などの動きにより、輸入量が減少しています。また、経済発展が目覚ましい中国の木材輸入は、急増傾向にあるそうです。よって、世界的には、利用可能な森林資源が減少傾向にあり、日本の人工林の伐採による国産材の供給増加が期待されているそうです。



さて、身の回りの日用品にも、木材を使った製品はたくさんあります。例えば割り箸。日本で考案された割り箸は、木材を余すところ無く使う工夫の産物であり、国産品は国産材の端材が利用されています。つまり、国産割り箸は、国産材利用あってこそ生まれるものなのです。しかし現状をみると、利用は、年間260億膳にもなりますが、ご存じの通り、大半は中国からの輸入品です。世界の人工林はわずか約5%だそうだから、低価格最優先の消費は、海外の天然林や原生林を切り開くことに荷担しているのかもと気がかかります。使い捨てが宿命の

安価な日用品の割り箸ではありますが、製品選択しだいで森のあり方を私たちが、選択していると言えないでしょうか。

もともと、少しでもコストを抑えたくて手を染めた自前木材の家造り。でもこの家に住む限り、森を考えると縁が切れない気がします。暮らしを支える人の営みは複雑で何においても一長一短あるものです。もしかしたら、モノ製産のひとつひとつのいきさつを知ることが、何気ない消費選択につながっていくかもしれません。良かったら、ちょっと立ち止まって、お手元の割り箸と遠くに見える山々を眺めてみませんか。

<<S>>

食育の公開セミナーに参加しました

1月13日、九州大学・福岡教育大学合同公開セミナー『いのちの授業』つなぐ！命のバトンに参加しました。生ごみで有機農法に取り組みされている吉田俊道さんと、子どもが作る弁当の日を発案された竹下和男さんが初めて一緒に講演されるということで、大学生に向けてのセミナーにもかかわらず、一般の方も数多く参加されていました。

生ごみ堆肥で作る野菜は、虫が付きにくく、栄養価も高い作物に育つとのこと。吉田さんは、その野菜を“元気野菜”と呼んでおられます。元気野菜は香りが良く、切り口がなかなか腐らないそうです。地球上の循環と、微生物の働きの重要性をお話しされました。

子供が作る弁当の日は、調達から調理、片付けまでを子ども自らの手で取り組ませる食育の日でもあります。竹下さんは13年前、校長として赴任した小学校で弁当の日を始められ、現在は多くの学校に広がっています。子ども達は弁当を作ることを通して、家族への感謝、社会との繋がりなど多くのことを学んでいるのだそうです。



▲ずらりと並んだおかず



▲大学生のおかずもおいしそうでした

昼食は、参加した学生がそれぞれ1品持ち寄ることができたので、私たちも料理持参で参加させてもらいました。アイデア満載のおかずが並び、料理に添えたコメントを読みながらたくさんの美味しい料理をいただきました。

5時間を超える長時間のセミナーでしたが、笑いあり、涙ありの食を考える充実した時間をすごしました。

《Yっち》

▼1/19 イオンモール福津
かえっこショップの様子



《Kまま》

ほっとカフェ 塩あん餅に出会って!

渡市(天草)で出会った『塩あん餅』。ほどよい塩味の小豆あん餅で包んだもの。暮れについた正月用砂糖あん餅は、長く置くとび割れして、あん餅からは汁(糖分)が出てしまいます。塩あんは、それを防ぎたいと思う昔の人の知恵から生まれました。

《Kまま》

次のエコけん1%クラブ



2月23日(土) 10:00~1時間程度 松原清掃活動

参加されたい方は、ご連絡下さい。



未来を創るインタビュー

No.20 福岡教育大学 教育学部准教授

技術教育講座 栽培学研究室 平尾 健二 氏

福岡教育大学の平尾先生にインタビューしました。

平尾先生は栽培学がご専門で、中でも稲の栽培に造詣が深くいらっしゃいます。今年度より中学校の技術科で「生物育成」が必修化された事から、技術科の先生方向けのセミナー等開催され、現場の先生とのつながりも大切にされている先生です。また、小学校でペットボトルを使った稲の授業を数多くされています。私たちエコけんとも、長くおつきあいいただいています。

Q. 未来のために今何が重要だとお考えですか

A. 子どもたちが、身の回りの環境や食べものの大切さ、すばらしさ(美しさ、美味しさ)を一人一人自分で気づくことができるきっかけをつくること。

Q. そのためにご自身で心がけておられること

A. 出前授業に出かけて子どもたちに語りかけたり、将来教員をめざす学生たちと語りあうこと。



未来を創るメッセージ

1人でも多くの子どもたちに伝えていきます!

ご自分は都会の真ん中で育ち、この道へ進むきっかけになったのは、中学生の頃に見たテレビのドキュメンタリーだったそうです。子どもたちには、将来目指すものを探すためのきっかけを多く作ることが、大人の役目だとおっしゃっていました。

学内の農園で、稲を始めいろいろな作物を栽培されています。栽培した作物は授業やサークルの中で、学生さんと調理をして食べているそうで、食いしん坊の私は思わず「羨ましい」と声をあげてしまいました。先生とお話をして、あたたかいお人柄だからこそ、自然と人を育む道に進まれたのだと感じました。

《Yっち》

思いを形に

特定非営利活動法人 **エコけん**

〒811-3114 福岡県古賀市舞の里5-24-13

【TEL/FAX】092-944-6450

【E-mail】eco_ecoken@ybb.ne.jp

【Web】jhttp://www10.ocn.ne.jp/~ecoken